

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>自分のいる研究室では、未だにシンプルイズベスト、あまり時間をかけるなというスタンスです。少しずつ改善されてきましたが、あまり良いパワポは作れていません。自分の能力の向上も必要なので何とも言えませんが、やりくりしつつどんどん勉強していこうと思います。</p>	<p>シンプルに越したことはないと思います。ただし、気持ちを惹きつける最低限のことは含めなければなりませんよね。</p>
<p>桜の説明についてですが、桜の木についての説明と人の説明を順序よく理論的に説明するよりかは、あえて順序を交互に入れることで、因果関係をつけてより深い背景を説明できることが面白かったです。幼虫が乾燥していたとしても蘇生をすることをテレビで説明する際に段落ごとに流れの構成で考えること大事であることがわかりました。またカップラーメンやミイラの譬え話を導入として、次に現在の研究所にフィードバックをさせ、本題に注目させる。そして、実際のデモンシチュレーションをさせてより具体的な状況を見せる。たった十数行の論文文章からここまで惹きつけるテレビ構成にさせるのはとても面白かったです。</p>	<p>ありがとうございます。自己訓練で一定のところまでは確実にたどりつけます。ぜひやってみてください。</p>
<p>魅力的な切り口などを工夫することで、一般の人にとっての興味の度合いが大きく異なることがサンプル動画を通してわかった 特に光ファイバーの動画を見て、専門的な内容や研究の意義として重要なことがスムーズに理解することへ繋がった。また、スプーンの記事を見て、有り難みを伝えるというのも面白いと感じた。今後、就活が控えているので、自身の研究でもそのように専門外の方に魅力を伝えられるようにしたいと考えている。</p>	<p>ぜひ、良い就職ができると良いですね。すごそうだったり、ありがたそうだったり、驚けそうだったり。なんらかの気持ちの作用を利用して相手に、聞こうとおもってもらうことが大切だと思います。</p>

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>動画も多く非常にためになる講義であった。仕事上でPRやプレゼンをする機会が多いが、正しい伝え方を意識していきたいと思う。特に、これまではいかにわかりやすい資料を作りわかりやすく伝えるかに固辞していたが、「興味深く」見て、聞いてもらえるようなプレゼンを実践したいと思った。本講義を受講し、今後の職務および学生生活に活かしていきたい。</p>	<p>そうですね。わかりやすいことはもちろん大切ですが、そもそも関心のないことについてはわかりやすかろうが難しかろうが手に取ろうとしないのが人間というものだと思います。</p>
<p>論文の作成や、学会発表には、読み手の感情を揺さぶる必要はないと思うが、共同研究を念頭に、企業相手にプレゼンする際は、今回の講義のような、ストーリーの構成を巧みに操ることがあっていいように感じた。事実に対して、綿密な調査を付けたし、構成を変えるテレビ業界の努力がうかがえて興味深かった</p>	<p>その通りだと思います。学会のように既にその分野に興味を持っている集団の中でしたら興味喚起は必要ないかも知れませんが、外の人に対しては聞いてもらえるための最低限の関心は引き起こさなくてはならないんだと思います。</p>
<p>本日はとても分かりやすい内容の講義をありがとうございました。実際に人に伝えるときに、より伝わりやすい、感情を動かしやすい、興味を持ってもらいやすい内容にするためのテクニックをたくさんの実例を交えて、自分で考えながら教えていただいたのでとても分かりやすく、私自身楽しんで講義を受けることができました。日常のドキュメンタリーでも、感極まって泣きながら番組を見ることがあるので、とても上手な編集なんだと感心しました、今後番組を見るときに視聴者の感情をどのように高ぶらせるような編集にしているのか考えながら視聴してみようと思います。今回の講義は、今後自身の実験成果を発表する際の、観衆を引き付けるプレゼンの方法としても役に立つお話だったと思うので、単調でつまらない発表にならないように、観衆の感情を意識してプレゼンを工夫していきたいです。</p>	<p>ありがとうございます。教材は日常生活のあちこちに転がっています。みなさん自身の気持ちが大きく動かされたものすべてから学ぶことができます。</p> <p>好きな教材を使って、ぜひ、段落分けの訓練、続けてみてください。</p>

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>ご講演ありがとうございました。人に伝わるプレゼンテーションをするために、どういったことを心がければよいのかを理解できたと思います。何かを説明する際には、相手の気持ちを逆算して、「知りたい」と思わせる準備をすることが重要であり、それによって心を動かし、専門的で難解な説明でも聞いてもらえるようになることが分かりました。振り返ってみると、人に何かを伝える際に私は、自分の話したい事や伝えたいことを前面に出してしまう傾向があったように思います。相手が自分の話す内容について知識や関心が無い場合、これでは聞き入れてもらえないと思います。今後は相手の立場に立ち、情報を与える順序を工夫することで伝わるプレゼンテーションができるよう努めたいと思います。</p>	<p>その通りだと思います。概して私たちは自分の言いたいことをそのままの形で発してしましますが、相手が聞きたい形に変換してあげることは、聞いてもらうための最低条件だと思います。</p>
<p>90分の講義があっという間に終わりました。進行、映像の使い方、興味の持たせ方が、流石だと思いました。プレゼンテーションに関する講義でしたが、論文や発表にも活かせる内容で大変勉強になりました。私は、論文の要素はよいが、構成がよくないとの指摘を受けることがあります。この指摘は、本日の講義にあった「目的」、「見せ方」、「タイミング」、「切り口」、「読み手（対象者）」に関係し、今日の講義の内容で改善できるように思いました。次回の論文では「ペタペタ」を作ってから論文を書こうと思います。江戸彼岸桜とネムユスリカの映像（放送）から、最初に視聴者にWhat?を抱かせてから、自然な流れで解説し、最後に視聴者の納得（腑に落ちる）ことで、最後まで視聴してくれることを理解することができました。今日学んだことを今後の論文や発表に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。</p>	<p>ありがとうございます。プレゼンの授業をしていてうまくプレゼンできていなかったらアホ丸出しですので、そうやってただで安心しました。</p> <p>ぜひご自身の気持ちが動いた番組やプレゼンを教材にして、段落分けの訓練をしてみてください。</p>

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義では伝える順番により受けとり方が変わることを学んだ。普段何気なくドキュメンタリーを見ているがこれからは構成についても注目出来たらと思う。研究発表では、目的、方法、結果、考察、結論と決まった順番があるため構成等を大きく変えることはできないが、それぞれのセクションで変えられるなら少し変えてみようと思う。</p>	<p>ドキュメンタリーは非常に良い訓練材料です。ぜひ段落分けをしながら分析してみてください。</p>
<p>プレゼンテーションの目的や聞く対象を考えて作成することについて研究紹介等でもよく言われてきましたがいまいまいちわかっていませんでした。今回小林さんからカタログと取説に例えた話を聞いてとてもしっくりきました。オープンキャンパスや課外活動で外部の人に自身の研究について話す機会も多いので今後は小林さんの話にあった内容を踏まえて作成していきたいと思いました。</p>	<p>そうですね。講義でも言いましたが、私自身、昔からカタログでのわくわく感が取説にないのはなぜだろうと思っていました。ぜひこの差を意識してみてください。</p>
<p>写真と動画での伝え方の違いを気にしたことがなかったのですが、動画では聞いている側の心理が重要になるという話は意外と気づかない点で勉強になりました。振り向いてもらえない事象があったら、それをありがたく思えるようにしなければならないということは、聴衆の興味を引く研究発表を行う上でも役に立つことだと感じました。また、難しい説明の前に、聴衆がその説明が知りたくなるように気持ちを作ってやる、ということは、発表の構成を考える上でも大事だと思います。具体例としてカメラのカタログ、説明書、形状記憶合金の話がださされていて、非常にわかりやすかったです。情報を捨てることによって特徴を際立たせる、売りたいものをピーアールするためのキーワードについての話は非常に納得しました。今後よい発表にするためにスライド作りなどはこの話に出てきたことを意識して作成したいと思いました。</p>	<p>ぜひ、良いプレゼンができるよう訓練を重ねてください。人生の節目節目でのプレゼンは、大げさ抜きで人生を大きく変えることになります。</p> <p>今回お伝えしたことは、動画にかかわらず、人にモノを伝える全てのケースに共通して言えることです。</p>

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私はプレゼンテーションが好きです。それは単に目立ちたいとか、自分をよく見せたいとかではなく、自分がどれだけ聴衆を思ってプレゼンを細部まで作り込み、発表練習を繰り返して、どれだけ伝えたいことを伝えたい意味で伝えられたかを実際に発表を終えた後に感じ、次に活かすサイクルが成長を実感できて好きだからです。本日の講義はプレゼンテーションに限らず「人への伝え方」という意味で自身を大いに成長させることができたと思います。特に、序盤に研究発表では論理性が求められ、テレビ番組等では人の心理性への合致が求められると話があったと思います。これは私自身が最近重視するようになった「聞く人に合わせたプレゼン」に通ずる内容だと思いました。今後の発表では、今日学んだ人の心理をどう揺さぶるかをプレゼンに活かし、聞く人や場に合わせた論理性と心理性のバランスを上手く取ることが重要だというのが私の中での結論です。</p>	<p>すばらしいです。まさにその通り。 ぜひ多くの人を魅了してあげてください。</p>
<p>研究室ゼミ、大学院の講義、学会などで聴衆に応じたプレゼンテーションを行う必要があると感じた。ストーリーのドラマチック具合、キャッチー具合を聴衆に応じて調節して、TPOにあった、後輩と先生の両方に意味のあるプレゼンをしたい。</p>	<p>そうですね。相手にあわせて、伝え方が当然変わるのがプレゼンです。ぜひ実践してみてください。</p>

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>研究報告会や学会発表における報告方法は、論理立てて説明を行う事が重要だと考えております。一般に向けた説明に関しては、話をいかにわかりやすく、かつ飽きさせないよう伝えるべきかという意識こそ大切な点であり、研究報告とは大きく異なっているように見えて、実はつながる点があるのではないかと思います。これまでに、学会発表や、論文作成をする中で、話の盛り上がるピークの点や終着点を意識することが多々ありました。今回の実践演習(桜の話)の中でも、大きく盛り上がる部分をどこに配置するのかということ演者側が試行錯誤をめぐらして配置するという作業は、論文作成に少し通ずる点がありました。例えばfigの並べ方などによって話の展開を変えたり、Result内の段落内のコアとなる一文を決める作業などです。大変興味深い講演をありがとうございました。</p>	<p>その通りだと思います。学会などでは既に関心を持っていてくれる人が多いでしょうから、一般向けほど興味喚起は必要ないかも知れませんが、それでもストーリーに惹かれるのが人間ですから研究者だって無味乾燥としたものより、気持ちが高まるプレゼンの方がより引き込まれると思います。</p>
<p>本講義序盤に流れた“ためしてガッテン“の動画にて既視感を覚えました。それは、スピーチをしている学生の心拍数の表示です。視聴者からは見えない人の心うちを明確に示しており、人の心を揺さぶるポイントではないかと思います。この心拍数の表示を私は、フェンシングの試合で見たことがあります。試合中の選手の心拍数を表示することで観客たちは選手の緊張感を味わうことができるというものです。人の気持ちを作るという点では似ているのではないかと思います。今後のプレゼンに本講義で学んだことを活かしていきたいと思います。ありがとうございました。</p>	<p>その通りです。心拍数の表示はあのビデオの中では大切な要素の一つでした。 そんな感じで、他の番組も分析しながら見る習慣をつけてください。良いプレゼン作りに必ずつながります。</p>

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>小林先生のご講演を聞き、なぜテレビ番組があれば人々を引き込むことができるのかについて一部を理解することができ大変面白かった。しかし、受講後の今、自分の今後の研究活動への結び付け方が難しいとも考える。正しく研究内容を伝えようとするただの紹介のようになり研究の魅力を損なってしまうかもしれない一方で、切り取ることで不足した情報が研究不正を生むかもしれない。これから先、自分の研究を社会に還元するためのプレゼンテーションを行う機会があるだろうが、人の気持ちを揺さぶることと研究内容に齟齬が生まれないようにすることを両立するプレゼンスキルを身に付けてその場に挑みたい。</p>	<p>そうですね、大切なポイントです。事実のみを使って、ミスリードないようにするのは大前提です。</p> <p>桜の木でも、若い枝と中山さん世話の仕方の因果関係は徹底的に調べさせました。卓球のビデオも精密製品という切り口を鮮明にただけで、真実のみで構成しています。</p> <p>構成力さえあれば、事実を曲げずに人の関心を惹くことは可能なんです。</p>
<p>とても面白くひょっとして本日の講義の中にも様々なテクニックが使われているかと感じさせるほど飽きさせない90分間だったと思います。今日紹介した人々を引き付ける主な3つのテクニックは非常に有効的であるものの個人的には好きではありません。研究とテレビショーでおっしゃる通り対象とする人が違うので研究的な発表を好む自分の感覚と相反するのではと思っていますが、本日でテレビショーの手品の種を見せられた気分になり嫌いな理由がはっきりとわかった気がします。</p>	<p>好き嫌いはあるかも知れませんね。お好みの方法で人に聞いてもらう方法を探索されたら良いと思います。ただ、今回の講義は手品ではありません。人が関心を持つということの本質を露わにし、それに沿ったやり方をご紹介しました。研究発表にウソや針小棒大な表現はあってはなりません。しかし、事実をどのような順番でどのように伝えるかは、工夫しなければならないところだと思います。</p>

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>分かりやすいプレゼンを作ることにはこだわっていましたが、プレゼンすることが目的となっていて、本当の意味で相手にどう感じてもらうか、どう理解してもらえるかやどう受け取ってもらうかは考えたことがなかったことに気がつきました。比較映像を見させていただいて、興味を持てるものと全く持てないものには、作り手の工夫がこんなにも強く影響しているということを感じ、非常に勉強になりました。データによる映像は何の興味も湧かず、何だこれ？と思わせる映像はその先が気になりました。魅力を感じてもらわなきゃ何の意味もなく、魅力を引き出すものを発信しなければならないというお言葉を聞き、人がその場に立ち止まり、人間の感情に訴えかけ、振り向いてくれるようなプレゼン内容を作りたいと思いました。</p>	<p>そうですね。1日を過ごす間にも、我々は多くの物事に触れます。すべてについて詳細に知ろうなどと思っははられないわけですから、いかに関心を持ってもらうかは必ず考えなければ後回しにされてしまうのが現実だと思います。ぜひ振り向いてもらう方法を模索してみてください。</p>
<p>第一声として、面白かった。カタログと取り扱い説明書の違いがとても分かりやすかった。世の中に広めたいのか、専門家同士で知見を共有したいのか、目的に合わせた表現方法が研究にも必要であることが分かった。相手の気持ちを揺さぶるテクニックを知ることは、一見研究とは関係ないが、研究職として他人に伝わらなければ意味がない。しまうまの例えも巧妙であった。今後、プレゼンや書類作成の際、相手の気持ちを作ってあげることが意識してみたいと思った。創意工夫はやり方が分からなければ苦痛だが、視点が分かるとワクワクする。</p>	

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>・良いプレゼントは：人間の感情の流れを味方しているか、データの羅列だけでは人は振り向かない</p> <p>・「解説」と「プレゼン」はちがう 解説は同じ分野の人やその事柄に興味がある人対象、論理立てて書く プレゼンは興味のない人をどう惹きつけるか、人間の心理に合っているか 提示の仕方によって見え方は全く異なる という点が印象に残りました。今後の自分の研究発表やプレゼンに活かしていきたいと思います。</p>	<p>そうです。解説とプレゼンは全く異なるものです。多くの方は気づいていませんが、そこに気づくことが良いプレゼン方法を身につけるスタートだと思います。</p>
<p>何かを相手に伝えるときに、興味を引くキーワードを提示することの有効性を実感しました。一方でそのキーワードに沿わない情報は勇気をもって捨てることも必要であり、正確に伝えようとするあまり情報過多になってしまいがちな自分のプレゼンテーションを見直していきたいです。</p>	<p>何かの切り口でその対象物に興味を持ってもらえたら、その人はもっと知りたくなります。そのときに初めて他の要素も伝えていったら良いわけです。</p>
<p>研究者としてプレゼンテーションは避けては通れないが、これまでの自分の資料作成では今回紹介されていたような伝え方・表現方法の実践には至っていませんでした。紹介するトピックの順序や言い回し、レイアウトなどを少し意識することで、相手への受け取られ方が大きく変わることを実感した。直近のプレゼンテーションから早速心がけてみたい。</p>	<p>ぜひ、講義でお伝えした訓練をしてみてください。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>伝えることの本質を知ることができました。相手の心理を掴むということ。例えばなぜその現象がおきるのか。なぜという疑問を相手側に作ってあげることによって伝わりやすくなるということが分かりました。今後、学外での発表等で相手側に知識がない場合、意識してみようと思いました。</p>	
<p>今回の講義を受け、情報の受け手のことを考えてプレゼンテーションを行うことの重要性を感じました。特に印象的だったのは、ピンポン玉工場のVTRです。総合テレビ用向けに作られた映像は、ピンポン玉にあまりなじみがない人にも分かりやすいナレーションと導入部分、音楽を合わせ、無駄な情報をそぎ落としていることがよく分かりました。私も学会発表と、就職活動における企業に対する研究活動の説明は分けるように気を付けてきましたが、企業の中でも自分の研究内容と同じ分野と違う分野を扱う企業を分けて説明すればもっと分かりやすく伝えることが出来たのではないかと反省しました。今後、社会人になって社外の方や学会で発表する機会もあるかとは思いますが、今回学んだ情報を捨て、分かりやすく伝えることを意識してプレゼンテーションに臨みたいと思いました。</p>	
<p>本日はプレゼンテーションに関する講義でした。人に物を伝えるために重要な3つのポイントを学びました。一つ目の逆算では動画のピークでどのような感情に持っていくのかを逆算する大切さを学びわかりやすくより興味深いというポイントを大切にすることがあることを学びました。二つ目のキーワード発見ではキーワードを決めてそれ以外の物事を捨てる必要さを学びました。3つ目の塗り絵方式では全体像を説明したのちに細部を説明する重要性を知りました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>演習も含めて、とてもタメになるものだった。伝える順番や伝えるものの重要性を考慮することが大事で、人とは違う発想をすることで、一気に見る人の興味を引くことができると感じた。</p>	
<p>今まで、自分がプレゼンする際、論理的に筋が通っていて、順序に沿って説明すれば人が理解出来るプレゼンになると思っていました。しかし今回の講義を受け、人々の気持ちってものを理解し改めた。小林さんの説明はとても聞きやすく興味を持つ話し方だったのだなと感心しました。発表に興味を引くために話の順序だったり、話し方の大事な点をいくつか説明していただきましたが、1番重要視しなければいけないポイント、話のわかりやすい伝わり方の順序を教えてくださいたいです。</p>	
<p>魅せ方の違いによって視聴者や伝えられる側への印象、惹きつけ方が大きくことなるというのは一見当たり前だが、改めてその大切さが分かった内容だった。私は、卒業論文の発表にあたって、教授から初めて見る人にも分かりやすく、興味が湧くような説明にしろと常々言われていたが、今回の授業を受けて、無駄な説明が多かったこと、特に重要な部分や伝えたい部分が強調できていなかったことを学べた。今後、学会発表なども控えているので、今回の授業の内容も踏まえて伝え方を工夫していきたい。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>研究室のゼミや学会における資料作りをする上で自分のプレゼンテーションの作り方、発表を見直すいい機会になり、非常に学ぶべきことが多かったです。伝えたいことのピークをどこにもっていくかを逆算していくことが大切であることを学びました。難しく専門的な内容を伝えるときは、分かりやすくではなく、興味深く伝えることが重要であると思いました。また、情報量が多いと受け取り側は何が重要であるか判断できないので、捨てることが大事であることを学び、キーワードを1つ設定してそれに沿って説明していくことが大切であることが分かりました。</p>	
<p>冒頭で写真と動画の違いが気持ちの流れがあるかどうかという話を聞いた。確かに写真は出落ちな部分があるので最初の印象以外に新たに気持ちの変化というのは起きにくいと思った。逆に動画は人が手を加える必要があるので、作り手の技術がとても重要だと思う。受け手の気持ちをいかに考えられるか、または受け手の立場によって伝えたいことを取捨選択するということが鍵になる感じた。例が多かったため理解はしやすかったが、例が多いと受け手によって捉え方が異なると思うので小林さんの考え方や価値観などもう少し抽象的なお話も是非聞いてみたいと思った。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>興味のない人に興味を持たせるには、具体的なデータではなく人の心に揺さぶるような内容が良い。番組の中で気持ちの高まりのピークを設定し、そこまでの流れを逆算して組み立てていく。驚きができるだけ大きくなるような方法を模索する。例:形状記憶合金の説明するときに、ドライヤーを説明無しにいきなり渡し、合金が戻る様子を自分の手で経験させる。その後説明することで、興味を持ってもらえる。情報量を減らすことでCMのインパクトを強められる。売りたい部分が明確になる。売りたいもののキーワードが見えてくる。キーワードは売りたいものの最も魅力が見える切り口のこと。スプーンを説明無しに回し、その後にスライドで記事を見せた後スプーンの回る速度が遅くなったという説明がされたときに目からウロコが落ちた。興味を持たせる説明の仕方というのがどういうものか理解出来た。</p>	
<p>人は単なるデータの凄さだけでは引き付けられず、楽しそう、面白そうなど感情の変化がないと引き付けられないことから映像づくりにおいては人を感情的に引き付ける工夫が必要だと感じた。魅力を伝えるためには情報過多にならないようにキーワードの取捨選択をして特に自分がいいと思うようなところをしっかりと伝えるようにすれば相手に伝わると感じた。(客観は難しいので)情報を伝えるという感情をこめなくてもよさそうな行為にも感情が絡んでくるので伝える側は相手の感情も考えなくてはならず、伝えるという単純に見える作業がかなり大変なものであると感じた。カップ麺昆虫が17年間も乾燥させられても水だけで生き返る特性には驚きという形で情緒を揺さぶられた。これは自然環境に適応するための進化の結果だと思うとすごい仕組みだと感じた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を通して、プレゼンテーションをする際に重要なことを学ぶことが出来た。プレゼンテーションをする際には、聞く人の気持ちを考えることが大切だと学んだ。自分が特に説明したいことは、聞く人の気持ちがピークに持ってくるのが良いということ学んだ。そして、そのピークの前には何を説明すればよいのかを考えることで良いプレゼンテーションを作ることが出来るということ学んだ。同じ内容であっても話す順番を工夫することによって、より効果的なプレゼンテーションをすることが出来ることが分かった。また、聞く人の興味をひくような導入が必要であることを学んだ。今日学んだことは自分の研究内容を専門外の人に説明をするときなどに生かすことが出来ると思った。</p>	
<p>本日の講義を受け、誰かに伝えるプレゼン力を上げるためのコツが学べた気がします。プレゼン力を高めるためにたくさんのキーワードを紹介していただきましたが、私は特に目標が何かが一番大事ではないかと感じました。それは、その分野にもともと興味があって知っている人が、さらに詳しい情報を求めている人に伝えたいのか、それとも何も知らない人に興味を持ってほしくて伝えたいのかで同じプレゼンをするのは間違っているというところが当たり前ですがとても大事なことだと感じました。一つ質問なのですが、今日の講義の構成が金神的にですがずるいなと感じたのですが、やはりずる賢さがプレゼンに必要なのでしょうか</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義はプレゼンするときの効果的な方法を学んだ。自身のプレゼンをする時、相手に関心・興味を抱かせることが最も重要なことである。わかりやすプレゼンよりも関心を抱かせるプレゼンをする。相手にプレゼンをする時は大胆に要素を捨てなければならない。一つの利点を大々的に宣伝する。そうすることで興味を持った聞き手が二つ目、三つ目の利点が知りたくなる。情報を盛り込み過ぎない。どこが重要な項目なのかわからず、情報をうまく処理しきれない。キーワードを提示して、そこにスポットライトを当てる。全体図（概略）を大まかに説明してから、細かいところを説明していく。</p>	
<p>プレゼンの組み立て方や人の惹きつけ方等様々なことが印象に残ったし、非常に参考になった。今後論文発表や就活などで活かしていけたらと思った。</p>	
<p>情報を伝えたい時に、一番伝えたい情報を相手の気持ちのピークに持ってくるのが大切だということと、自分が伝える時に全然意識できていなかったことが分かりました。相手にまず興味を持ってもらうこと、その興味、疑問に対しての答え方などこれからの研究発表などで活かせるようにしていきたいです。実習を通して自分がどのくらい情報を伝える能力があるのかが体感できたので楽しかったです。</p>	
<p>物事を人に伝えるときはわかりやすさ重視、すなわち理論的な説明を心がけていましたが、スムーズな展開には人の感情の移り変わりが大切だということが分かりました。論文を書く時にはなかなか難しいですが、そうではないときにぜひ全体の流れを重視してみたいです。</p>	
<p>見せ方による印象が全く違う。テレビ制作のみならず、プレゼンのスライド作成にも応用可能で非常に参考になる。</p>	

第8回 キャリマネ2022 プレゼンテーション (小林様)_6月3日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>話す順番を変えるだけで視聴者の捉え方が変わることがわかった。気持ちの逆算を意識してプレゼンテーションを作っていきたいと思った。</p>	
<p>興味をひく発表の仕方、内容の構成について学びました。今後人前に立ち話す機会が訪れたら今回の話を思い出して話そうと思います。面白かったです。</p>	
<p>気持ちの変動を考慮、状況に応じた情報の取捨選択を行うといった話や誰をターゲットとして見せるものなのか、それらについて意識して考えること、またそれら以外にも、キーワードのお話、概略から入ること、それら全てのお話が参考になりました。私は「ためしてガッテン！」が好きでよく拝見させていただいていたのですが、今回のお話を聞き、このような考えや技術が使われていたのかと知ることができてとても面白く聞かせていただきました。本日は講義していただきありがとうございました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は本講義を通して、PRやプレゼンテーションがどう訴えるか、どう見せるかで人の心が大きく変化することを学んだ。本講義では、以前、NHKで放送されていた「ためしてガッテン」や「サイエンスゼロ」のプロデューサーを務めていた小林氏から話を伺った。自身が小さいころ、この番組が放送されているとよく見入っていた記憶がある。講義を聴いて、このように人の心を動かす理由について理解することができた。興味深い内容にすること、キーワードを絞ること、概略が必要であることが重要であることが分かった。本講義で学んだことは、学会発表や修論発表、就職活動等でプレゼンテーションをするなど、自身の今後に役立つような内容であったと感じる。学んだことを生かして、自身のプレゼンテーション力を上げていきたい。講義内で紹介もあったが、このような力を身につけるために必要なことや気を付けるべきことがあったらお聞きしたい。</p>	
<p>相手へのプレゼンの手法である伝え方の順番について映像を交えて講演をしていただいたのでとてもわかりやすかったです。実際卒論においての序論や、学会論文でのアブストラクトには簡潔に研究の内容をまとめたり、食いつきやすいかつ分かりやすい内容を書くように教授から教えられました。論文と映像ではまた少し違いがあり、視聴者の感情変化があるため流れが大事だと改めて知りました。気持ちの逆算、収録の設計で思い出しましたが、自分の好きな新海誠監督の作品構成も付箋にどういった内容で観客を盛り上げていくかを書いたタイムテーブルを作っていた記憶があります。ゆえに映像より伝わりづらい文章ではより一層「流れ」を意識して構成を考えることを頭に入れておこうと思います。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>プレゼンテーションに関する講義だった。私自身プレゼンは得意ではないので、非常に参考になった。誰に向けてプレゼンするのか（ターゲットを決めること）が大事である。そして、研究している人と一般の人が知りたいことが違うのでこのギャップを埋めることが大事であると思った。初めに全体を説明して、最も魅力的に見えるキーワードを見つけ出すことが大事である。</p>	
<p>同じ内容のプレゼンテーションでも、関心のピークとなる場面を意識して全体を作っていく、伝えたい要素以外を削って関心を集中させることで、聞き手の興味が大きく変わることがわかりました。また、研究室でゼミを行う中で、講師さんと同様に、違和感のない話の筋道を立てて伝えることが大事だと言うことを何度も学びました。</p>	
<p>上手なプレゼンテーションの仕方について度々考えることがあったが、論理的に分かりやすく伝えることが必ずしも人の心を動かす「魅力」にはならないことが分かった。また、読み手、聞き手の気持ちの「逆算」、伝えたいこと「キーワード」の発見、概略から詳細に向かう「塗り絵方式」がプレゼンテーションのコツであることがよく分かった。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>研究発表をする場面が多々ありますが、聞いている人がどのような人なのか把握し、どうすれば伝わるかを考えることが重要なのだと思いました。私も教授からスライドをもっとシンプルにと言われることがあります、それは「捨てる」ことで相手に伝わりやすい発表になるということなのだと思いました。また、番組を作る時に見てみる人の気持ちに注目して映像を構成していることが印象に残りました。「1番伝えたいことの前に、理解したくて仕方がなくなる気持ちにしてあげる」というのは見ている側のことをよく考えていると思いました。どうしたら伝わるか考える時に見てみる人の気持ちにを考えれば良いということが分かりました。</p>	
<p>人に物事を伝えるときには、気持ちの逆算・キーワード発見・塗り絵方式が有効であることをワークを通じて感じる事ができた。また、どこにピークを持ってくるのか、前にどんな情報を持ってくるのかで伝え方が変わることがわかった。相手の気持ちを動かすためには、入念な準備だけでなく、伝える構成も考えることが必要であることを学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>テレビの制作側は間のつくり方など観る人の気持ちを動かすことを行っている、というのがとても興味深く感じた。プレゼンテーションも確かに相手の気持ちを動かすのが大事であり興味を持たせなければならないということが深く共感した。興味を持っていない人にどう興味を持たせるか、論理ではなく心揺さぶるショーにしなければならないということを聞いて、面接での挫折経験や学会発表で研究の中でのドラマを、といわれる理由がわかった。ヒトに伝えるには捨てる、強い特徴を残してほかを捨てる。こうすることでさらに知りたいと思わせることが出来る。詰め込みすぎると何も際立たないため、伝えたいことが伝わらないというところが、CMがあることによりとても理解しやすかった。演習で出てきたネムリユスリカがからっからに干からびさせられても水につければ発育を再開するというのが、気持ち悪いなと感じた。が、VTRは親しみやすくわかりやすかった。</p>	
<p>「興味深く」伝えるという伝え方がわかりました自分は数値や結果などを全面に押し出すことが多く学会等ではよく質問をいただけるのですが学内のその分野に詳しくない人からはあまり興味を持っていただけなかった経験がありました。それはキリンの例のように自分が力を入れた部分ばかり話していて何をやるものなのか分かりづらいものとなっていたと気づきました。</p>	
<p>NHKの方のプレゼンの工夫をお聞きし、演習を行ったことで、他のテレビ局にはないNHKの番組の独特の「見せ方」のようなものを感じることができました。今日、教わった3点を心にとめておきたいと思います。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>CMという15秒?30秒の短い間に、視聴者に伝えたいことを取捨選択して、簡潔に説明する工夫を知れて面白かった。ピンポン球づくりの視聴して、導入を工夫するだけで視聴者の番組への興味が全く異なると思いました。番組を作る上で、各場面ごとに視聴者の気持ちのギャップが生まれないように逆算して番組を作ることが最後まで飽きさせない番組作りをする秘訣と知りました。これから番組を観るとき、番組の構成や工夫などにも着目していきたいと思います。</p>	
<p>お話を聞いてとても面白いと思った。番組制作で意識されている気持ちの逆算は、就活などで、自分の研究を紹介するときに参考になると思った。キーワードだけを使って、他を全部捨てるということが、私には足りていなかったと聞いていて思ったので、特にそこを意識したいと思った。</p>	
<p>同じ事柄でも、伝え方によって多くの見せ方を作ることができることを、就活の前に知ることができ、非常に有意義な時間でした。私は、2番目に紹介してくださった「キーワードの発見」に関しては、意識し、使うことができているのですが、他の2つの事柄に関しては、苦手な部分があります。特に、一番目の「ピーク」に関しては、特に意識することはなく、平坦な発表や紹介になってしまうことが多々ありました。今まで意識していた「キーワード」に加え、どこに「ピーク」を持ってくるのかを考えることで、自分の発信力を上げていきたいと思いました。また、言いたいことをわかりやすく伝えるために、結論ファーストなど、「塗り絵方式」を念頭に置いて、ストレスのない発表や受け答えを心がけていきたいと思います。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>アイデアと材料は同じでも、伝える順番を変えるだけで聞き手の気持ちも変えられることに初めて気づき、これから順番を気をつけて、話しをしたいと思います。また、伝えたいことを簡単にしぼって、わかりやすくよりも興味を大事に話す必要性もまなびました。感動させるのは偶然ではなく、計算も必要なんだと気づけました。</p>	
<p>つい2週間前に新入生に対してスライドを用いて研究室紹介を行いました。あまり良い反応はもらえませんでした。今回の講義で得た知識をもとによりわかりやすく人に関心を持ってもらえるスライドを作っていこうと思います。</p>	
<p>構成と考え方次第でここまで変化するのかと思うと驚いた。</p>	
<p>本日は、貴重なお話ありがとうございました。ヒトに何かを伝えて、理解してもらうには、人の心理を利用することが重要だと学びました。逆算、キーワード発見、塗り絵方式を活用して、人に興味を持ってもらえるような、伝わるプレゼンなどをしようと思います。</p>	
<p>プレゼンテーションをする上で人の心理を考えることが重要であることが分かりました。人の心理を考えるうえで人の気持ちがピークになるところから逆算していくことで心理を考えやすくなるということも分かりました。しかし、実際に彼岸桜のワークを行い、人の気持ちを逆算して考えることが難しいことが分かりました。しかし、要素と気持ちを場面ごとに分けて分析することで理解しやすくなることも分かったのでドラマや番組で実際にやってみたいと思います。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を受けて、映像を作る際に限らず、人に何かを伝える際には、相手にどう伝わるか考えて伝えることが大切だと思った。すなわち、気持ちの逆算である。これは、就職活動におけるエントリーシートや面接の際にも大切なことだと思った。ただ、相手の気持ちを逆算するということは、自分が相手の気持ちがわからなくてはならない。独特な感性を持っていたり、相手の気持ちを考える人には難しいことなのではないかと思った。つまり、多くの視聴者の心を掴むことができる映像が作れる人は、思いやりのある人なのかと思った。また、人によって心が動かされる瞬間というのは違う。よって、多くの人々が心を動かされる瞬間を見つけ出さなくてはならない。今回の実習の桜の話やネムユスリカにおいても同様に心が動くところは違うだろう。訓練をすることでこの能力が身につくのならば、ぜひ色々な映像を研究して、この能力を身につけたいと思った。</p>	
<p>本講義を聴いて、想像力を働かせて、相手の気持ちを逆算してアピール方法を考えることが重要だと分かった。また、それは技術によって我々学生も身に着けられること実感し、ぜひ私も訓練をしていきたいと考える。相手の気持ちを考えて情報を伝えるために、話のピークをどこに向かえるか考えること、情報を捨てて伝えるためのキーワードを探すことと、全体城から詳細を伝えるぬり絵方式について学んだが、これらの技術を使って訓練し、相手が楽しむような情報を伝えられる技術者になりたいと考える。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>講義全体を通して、気持ちの逆算をすることで人の興味を惹き付けられることを学びました。今までの自分は相手に伝えたいことがあるとき、データや数値で論理的に理解させようとするが多かったと思います。しかしそれでは、相手は関心を持ってくれないことがわかりました。これから何か伝えたいことがある際には、相手の「なんで？」という気持ちを作るよう意識していきたいです。また、アピールポイントを1つに絞って他を捨てるということも自分は苦手ですが、これもプレゼンの場において非常に重要であることがわかりました。今日学んだことを意識しながら行動し、伝える力を身に付けていきたいと思っています。</p>	
<p>プレゼンなどを作っているときに、あまり面白くないことはわかっているけどどう改良すればいいのかわからないということが多々あったので、今回の授業はとても参考になりました。これからは友人などに自分の研究について伝えるときも、身近に感じてもらえるように、気持ちを動かすこと、テーマを一つに絞ること、はじめに概略から伝えることなどを意識して説明したいと思いました。質問なのですが、個人が動画を自由に公開できる時代になりましたが、一般の方が作った動画で見せ方が上手だと思ったことはありますか？また、どのような点でそう思いましたか？</p>	
<p>伝え方ひとつで、聞き手の受け取りかたはこんなにも変わるのかと実感しました。とても面白い内容で大変勉強になりました。</p>	
<p>知識や興味のない人に理解してもらうことは非常に難しいのですが本日の講義は大変参考になりました。ありがとうございます。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>伝えたいことに注目してもらうことの重要性がよく分かったので、自分の研究発表でも意識したい。一方で、研究発表やバラエティー番組なら興味を持ってもらうための工夫をするのは良いことだが、ニュース番組でそれをやると印象操作になってしまいそうだとも思った。</p>	
<p>昨年度の学会ポスター発表の時に、自身の研究の内容に興味を持ってもらえるように作成することに苦戦した。ピンポン玉工場の例のように、ただ流れを説明するのではなく、どこが新しく興味を引くのかを考える必要があると感じた。</p>	
<p>解説や紹介といった人の見聞きする気持ちを揺さぶる表現方法と解説には大きな違いがあることが分かった。特に私は教育実習においてその違いについて考えさせられるものがあった。それは教師の私として、教科書の内容を教える際に分かりやすく伝えようと必死に授業方法を考えた。しかし、実際に生徒にとっては未知の学習内容を勉強しているため、「分かりやすく」と言うことよりも、その授業で「何を教えようとしているのか」といった違いが生じてしまった。自分も学生だった時分があるのに、それを失念してしまうことがあるため、伝えることよりも伝わることを考えるのが大事であると、この講義を通して改めて認識した。</p>	
<p>プレゼンをするときはわかりやすく説明するよりか興味を持ってもらうような説明をすることが重要だと分かった。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>貴重なお話をありがとうございました。伝える話の仕方について理解できました。特に、プレゼン相手であったり、その目的であったりで、伝えかたを工夫する必要性についてわかりました。講義中、さまざまな具体例や、ワークを通じてなるほどな、と思われました。今回の講義ひとつとっても、先生の工夫によって成立しているなと感じました。正直な話、90分の講義は長く淡々としていることもあって、長いと感じることが多いのですが、今回の講義はあっという間に終わってしまったなと感じています。とても面白かったです。</p>	
<p>私は自分の研究を人に伝えるのが下手くそであったが、今回の講義でわかった。まず相手に何を一番伝えたいか考え、その部分をわかってもらうためにどう構成していくかということをも自分の中で一番理解しておかなければいけないということだ。また、プレゼンなどでも相手が次のスライドを見たいと思えるような内容を制作していきたいと思った。伝え方のヒントは身近にたくさんある。とても勉強になりました。ありがとうございました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は、学部の4年生の頃からゼミや研究活動発表、さらには学会など、誰かに発表をする機会が多くなりました。しかし、それまでは発表する機会などほとんどなく、自覚するほどわかりにくい発表をしていました。それから一年が経ち、徐々に発表のコツを少しずつ掴んだと思っていました。しかし、今回の講義を聞いて、私の発表は人の興味をそそるものではなく、どこか説明的な発表をしていました。今まで私が行ってきた発表では、説明的な発表が必要な場面が多々ありましたが、それと同じくらい、人の興味をそそる発表が必要な場面もありました。そのため、この講義で聴いたように、何を一番に伝えたいかを自分なりに考え、無駄な部分を削ぎ落とし、わかりやすく、興味を持つような発表を行いたいと思いました。</p>	
<p>テレビ番組などを使い、プレゼンテーションや伝え方に関することについてのとても分かりやすい講義であった。言葉の並び順や、バックグラウンドの説明を追加するなど少しの変化で感じ方が変わるということを直に学ぶことができた。今後の研究発表や就活、就職後のプレゼンなど様々なところで役に立つ大事なことであると考えている。</p>	
<p>今回実習ということでネムリユスリカの動画を見て段落のタイトルと気持ちを記入したときに、私自身でも気づかないような潜在的な気持ちの変化を考えて動画がつくられていることを知り、驚きました。何を伝えたいか、どこをピークにするかを考えて、それに基づいて構成を考えるという作り方を今後実践してみたいと思いました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本当に様々な映像を用いて、プレゼンテーションについて、どのように相手に伝えるかについて、説明されていて、とても楽しかったです。同じ情報を持っていたとしても、伝え方によって受けての印象が全然変わることを酷く痛感致しました。普段のテレビ等でも感情が動いたときに、じゃあどうして感情が動いたのかを考えてみるのはいいなと思いました。相手への伝え方をもっと考えてみたいと思いました。</p>	
<p>主題が同じでも見せ方次第で相手に興味を持ってもらえるか、記憶に残せるかが全然違うのだということを実感できた。大学の研究をやっていると学会や研究室内の発表など、ある程度知識を共有できている相手に対し成果を発表しているため、見せ方について深く意識したことはないが、今後就職し自分の成果を伝えるにあたり、専門外の人を相手にすることも多いだろうと思われるため、今のうちからどう伝えれば興味を持ってもらえるか、わかりやすいかということ意識したい。</p>	
<p>研究のプレゼンをする際、今まではとにかく分かりやすく構成することを意識してきましたが、今回の講義で気持ちを揺さぶり興味を持たせることも大切だと分かりました。今後のプレゼンに非常に活かすことのできる講義内容だと思いました。</p>	
<p>今日学んだ専門領域をどのように伝えるかといったプレゼン技法は、今後の就職活動の面接などにおいて自分という人間をどのように伝えるか、知ってもらうかといった面において生きてくる技法だと感じた。講義中にもあったが、日頃からメディア等の伝え方がなぜ自分に伝わったのかを意識して考えていきたい。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>プレゼンテーションでは、どう訴えるか、どう見せるかで同じ内容でも印象が全く違うと学びました。感情を揺さぶるプレゼンテーションのためには、逆算が重要です。気持ちを揺さぶるにはどんな情報をどのように見せればよいのか、気持ちの流れを逆算して情報の見せ方を工夫することが大切です。また、対象が魅力的に見える切り口「キーワード」も重要です。いきなり「ピンポン玉の作り方を紹介します」と説明が始まってあまり興味が湧きませんが、ピンポン玉のすごさを紹介してから作り方の説明に入ると、興味深く説明を聞くことができます。また、塗り絵方式による情報の提示のしかたも重要です。徐々に情報を明らかにしながら、最後に1番気になる情報をもってこることで、聴衆の関心を高めたまま終わることができます。</p>	
<p>最後の動画ですが小さいころ見たことがあります。サッカーに興味がないのになぜ記憶に残っているのかというのは番組から考えがあったのかと思ひハッとしました。自分を好きになってもらうにはどうしたらいいか、私はよく考え不安になりますが、自分のことを知ってもらうと空いても同じように話してくれたり、また、共通の話題や感情というのを共有できると非常に仲良くなることができると思う。また、人に簡単なものでもよいから頼みごとをする、ものを借りるなどすると、貸し借りするほど仲が良いと認識し、仲良くなるというのも聞いたことがあります。情報の伝え方というのにも段階をふめば相手により魅力的に伝えることができ、また一方で、伝え方によっては全く相手にされない、印象に残らないものにも変わると分かりやすく認識できました。面接やESなど非常に就活では重要なものだと感じるののでしっかりと意識し頑張っていきます。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日の講義ではプレゼンテーションや話の伝え方について学びました。具体的に学んだ事は3点あります。1点目は必要な情報を伝える際には1つのことを際立たせることが重要であり、ときには余分な情報を捨てる必要があると言う事。2点目は話を伝える順序が大事だと言うこと。3点目は相手にわかりやすく伝えるのではなく、如何に興味を持ってもらうかが大事だと言うこと。以上の3点を意識することで、同じカードでも相手に感動を与えられる回数が増えることがわかりました。就職活動や学会での発表に生かせるような非常にためになる講義になりました。</p>	
<p>伝え方や伝える情報によって、視聴者の印象がこんなにも変わるのかと驚きました。物事を考える上で相手の立場を意識しているのですが、逆算的な思考が苦手なので、意識して克服していきたいです。</p>	
<p>実際に映像を比較してみることで、すごく仰っていることが分かりやすくなっていると感じました。個人的な話ですが、出身がさいたま市なので、最初の栄東中学校がとても懐かしく感じました。最後の要素と気持ちの話が大変興味深かったので、今自分がはまって、何回も繰り返し見ているアニメでやってみたいと感じました。</p>	

第8回 キャリマネ2022 プレゼンテーション (小林様)_6月3日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>講義ありがとうございました。例が多く、非常に分かり易かっただけでなく、面白かったです。この講義を通して、伝え方が受け手に与える影響が非常に大きく、内容がどんなに良くても伝え方次第では1にも100にもなると感じました。また、ちょうど最近、研究者には伝え方があまり上手でない人が多いと感じる機会があり、自分はそうはなりたくないと思っていたため、この講義内で説明されたキーワードを絞ることや、伝える順番を逆算して考える事、伝え方のトレーニング方法などがとても参考になりました。これから実際に行っていこうと思います。</p>	
<p>内容でも提示の仕方ですべて伝わり方が異なることが分かりました。人の気持ちを揺さぶる動画には理由があり、そこにはち密な計算がされていることを知りました。これから、論文発表などプレゼンテーション、動画作成をするときは、本日の講義で得たことを活かせるように、テレビやyoutubeなどの動画を研究していきたいと思います。</p>	
<p>今回の講義で、伝えたいことに対していかに魅力的でわかりやすく説明ができるかが重要であると学んだ。そして、常日頃から一つの物事に感想や考えを持つことを心がけるよう動力し行うようにしたいと考える。</p>	
<p>関心の無い人と迷っている人に」に対して、わかりやすく説明より興味深くが重要です。気持ちの高まりも必要であります！</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義では、人にPRを行うときのポイントとして、（気持ちの）逆算、キーワード逆算、塗り絵方式の三つをご教授頂いた。その中でも、逆算のお話を聞いて、僕が無意識に女性と話す時にやっていることだったので、間違っていなかったのではと安心した。また、話のピークをどこに持ってくるのか、また、どのように興味を誘導するかというお話がとても面白かったです。ピンポン玉工場のお話と桜のお話も、ポイントを押さえて話すと印象が全然違ったので驚きました。また、この講義自体、そのポイントを押さえてお話されていたので、引き込まれました。</p>	
<p>本日の講義ではプレゼンには心を動かすことが重要と言うことで驚きましたが、少し納得するところもありました。私の実家が静岡県なのですが静岡にいた頃のcmでとても面白いものがありました。コンコルドと言うパチンコ会社のcmなのですがパチンコは最後に会社名の前に入っただけで店舗の写真もありません。ただひたすら歌に合わせて踊るだけと言うものでした。しかし、歌がなぜか頭から離れず知らない人がいないcmでした。今回の講義からやはり凄いcmだなと思いました。ただひたすら楽しいや悩みが晴れると言うことをアピールし、視聴者に疑問を持たせ心に残るものでした。自身でこのように上手く構成を考えることはまだ難しいですが、少しずつできるようになりたいと思いました。</p>	
<p>本日の講義では伝え方について学んだ。同じ内容を伝えるにしても、内容や対象に応じて伝え方を考える必要性を感じた。自分は今、大学院での学会の発表や就職活動の準備を進めているがそれぞれに応じて求められている発表内容が異なる為、それにに応じて対応したいと思う。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を受けて考えていることは、教えて頂いたプレゼンテーションの方法を用いて、いつも淡々とした研究のプレゼンテーションをどう変えるかということだ。学術的なプレゼンテーションは今日の説明でもあった通り、取扱説明書のようなものなので、興味があるまたはその分野に携わっている人が聞くものだ。そのため、前提となる知識は知っているものとして話が展開されていくため、学生の研究発表会では、その研究室しか詳しく知らないようなことでもきちんとした概略無しに話を進めていくことがしばしばある。今回の講義に当てはめると塗り絵の縁取りがなされないまま中身を塗っていくようなものだ。このようなプレゼンテーションを聴くと始終情報の整理が追い付かず、結果的に何が言いたかったのか分からないまま終わってしまう。そのためこれを防ぐためにも、私のプレゼンテーションでは塗り絵方式を重視して構築していきたいと考えている。</p>	
<p>聞き手に対して記憶に残る伝え方をするためには、話す順番や重要ではない情報を省くなどの工夫が必要であることが分かりました。研究においても、自分が行っている研究を相手に正しく理解してもらうためには、背景つまりIntroductionにも注力することが大事だと改めて実感しました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日は伝え方に関して貴重なお話をありがとうございました。私はちょうど昨日、研究室のゼミで自分の研究の発表を行いました。その際、伝える対象が研究について深い知識のある先生や先輩、同期のほか、研究室に入りたてであり前もった知識がない新四年生たちでした。伝える対象の知識の量に差がある場合は少ないと思われる方に合わせて説明した方がいいと思い、そうなるように心がけましたが四年生たちにはあまり伝わっていないようでした。構成の組み立てが上手ではなかったと感じています。今回の講義を思い出し、次の発表に活かしたいと思います。ありがとうございました。</p>	
<p>自分のやってきた研究や実績を発表するときに、聞き手はどのような人なのか(内容に興味をもってくれているのか、研究者なのかそうではないのかなど)を意識して見せることが大切だとわかりました。また、事象をみせるにあたって、一番強調したいところをピークにするためには、そこで最も見る人の感情が揺さぶられるような前提情報の出し方・エピソードの作り方が効果的だと理解しました。人に見てもらえるプレゼンテーションを練習心がけていきたいと思います。</p>	
<p>プレゼンテーションについて様々な番組から具体例を通して学ばせていただきました。自分も人前で発表することには苦手意識がありプレゼンテーションもまた避けていたことでしたが、組み立て方の例をいろいろ見せていただいたので参考にこれから経験していけるといいなと思いました</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>同じ内容でも順番や切り口を工夫することで、伝わり方が変わってくるのがわかった。また、ピークを考えて自然な流れにすると伝わってくるものがあると蚊のビデを見て思いました。あと、自分はあがり症なのでどうすると上がらなくなるのかが気になりました。</p>	
<p>今回の講義ではPR、プレゼンで伝えたいことを魅力的に伝えるためにはどうしたらよいかといった話だった。事実を分かりやすく伝えるのではなく、見る人が分かりたいと思えるように伝えることが大切ということを知り、聞いてなるほどと思った。自分は、分かりやすさと興味を引くことを両立させようとするのが多く、どっちつかずになってしまっていることがあると思ったので用途によって使い分けることを心掛け、普段から興味を引くプレゼンになるよう心掛けたい。</p>	
<p>今回の講義で、興味のない、あるいは専門的でない人に向けたプレゼンテーションを行う上で、受け手の気持ちを考えながら発表内容や順序を考えることの重要性を体感することができた。時折、「この人、発表が上手だな。わかりやすいな。」と感じる発表はありますが、それは自分の気持ちが上手に操られていると知り、そのテクニックを今後活かせるようになりたいと思った。学術的な発表でも、キーワードや伝えたいことを詰め込んでしまう傾向にあったため、ポイントを絞って発表する癖をつけていきたい。また、講義中であつたように、テレビやCMも広い意味でのプレゼンであることを意識し、ぼーっと見るのではなくどうしてこんなに惹きつけられるのか、どうしてこんな感情になるのかを論理的に考えつつ、相手の心理を考えたプレゼンを心がけていきたい。本日は、貴重なご講演ありがとうございました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>同じ内容でも、本当に興味がわくかどうか表現の仕方によって変わることに驚きました。改めて、普段のテレビを見てみると、自分の気持ちが作り手に気づかぬうちに操られていました。同じように、自分の実験に関するスライドづくりや、人に上手く物事を伝える時も、今回の三つの項目を考えていこうと思います。また、伝える対象の人がどんな立場なのか、自分が伝えたい内容が何かなど、一度整理して、構成を組み立てていくことから始めようと思います。</p>	
<p>私のゼミでは、毎回自分の調べたことをパワーポイントにして発表する形式を取っているが、今回の講義は今までの講義の中で一番ためになった。「何をピークにもっていくか」、「そのピークの前の気持ちはどういう状態なのか」など、私が、普段感じていたものを先生が事細かく言こかしていただいたおかげで面白いくらい納得した。また、何かを人に伝えるために必要なことは「わかりやすく伝える」のではなく「興味深く伝える」ことと言われたときは今までのプレゼンテーションに対する考え方が大きく変わるような金言に聞こえた。人に伝える情報は、極力いらぬ情報を省くことが大切だと言うことも今までの私の人への教え方に全くない要素だったので、非常にためになった。今回の講義の内容を踏まえ、これからのプレゼンテーションに役立てていきたい。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>感想 本日は、貴重なご講演ありがとうございました。私も文章を作る際は、一度私が体験した時系列順で書いたのち、再度順番を見直して最終的に文章を完成させるくせがありました。しかしながら、見直した後の順番は、自身がなんとなくこっちの方がいいと思う順番にするのみで、その順番に意味を考えながら文を作成することはありませんでした。今回、先生の講義を聴講し、どこをピークとするのか、そのピークに行くまでにどのような過程をたどるのか理論的に考えることで、人の気持ちを揺さぶるストーリーが作れることを知りました。また、今回の講義も1時間半非常に興味深く聴講させていただきました。おそらく、今回の授業もピークが設定され、そのピークに行くまでの順番が計画されていたのかと思います。人を引き付けるプレゼンの仕方を、再度今日の授業を振り返ることで学んでいきたいと感じました。</p>	
<p>相手に疑問を持たせて、それを提示するような流れが大事ということは、なんとなくわかっていましたがどういうプロセスを踏めばそれが達成できるか知れて楽しかったです。並び替えが一致したため、嬉しかったです。</p>	
<p>同じ物事を伝える場合でも、表現の仕方によって相手を引き付ける度合いが大きく異なることが分かった。相手に疑問を持たせる、なぜそうなるのだろうと思わせてから説明するとよく聞いてくれる。またむやみに伝えたいことを並べるのではなく、要点を絞って話すと伝わりやすい。初めから詳細な事柄に入るのではなく、全体の概要を伝えてから説明すると伝わりやすい。登場人物がいるとより説明やその事柄が頭に入ってくるなという印象を受けた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>端的に言ってしまえば、今回の内容は全て知っている内容で、いろんなところで言われているような伝え方のテクニックでした。しかし、今回の講義の良かったところは、それを映像の制作に関わってきた方が伝えることで、その紹介に説得力があったことです。小林さんが例示されていたCMを見ると、伝える情報を減らすという工夫があると同時に、目を引くような映像になっていることがわかりました。その例は、「伝える情報を減らすことで伝わりやすくなる」という例だったのですが、「まずは興味を持ってもらう」という意図を含んだ映像でした。講義の内容として、一つ一つの話は単純な構造でしたが、それらを組み合わせるという技術が実践では求められると感じました。</p>	
<p>今回の講義で、逆算・キーワード発見・塗り絵方式の3つの観点を踏まえることで人に興味をもってもらえるPRやプレゼンができることを理解した。特にキーワード発見の内容を聴いたとき、ある人気アナウンサーが自分のPRをする際にエピソードトークを大事にしているというインタビューを思い出した。小林さんがPRに客観はいらず主観を表に出すことが必要だと仰っていた通り、自分の所属を端的に話すことよりも、そこでの印象的な出来事に比重をおいて話すことの重要性を感じた。また、研究者に身近にある現象や風習を解説してもらった番組をよく視聴しているが、ある放送回において自身の研究内容が過度に強調されていたため不愉快になったことがあった。身近にある疑問は誰でも興味を持ちやすいが、その後の「解説」が適切に行われていないと人に負の感情を与えうることを今回の講義を聴いて改めて感じた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を通して、人に伝えるときの考慮する点について理解することができました。自分は研究成果を発表する際に、自分の研究内容を多く話したいあまりに、聞き手の理解を上げるための内容が欠如していたり、情報量が多くなってしまうことが多々あります。この際にどこに注意して発表することで理解を促せるのかが理解できました。伝えたいことを1つとかに絞り、感情の高まりを上げていくという方法は、実例からみてかなり有効な手法であり、自分にとっては新しい考え方なので、これからの発表に使っていきたいです。伝える方法、構成をよくすることで、発表そのものが良く見せることができると理解したので、それらに関しても注目していきたいです。</p>	
<p>伝え方ひとつで印象と興味が全く違うことを知りました。発表練習を研究室内ではよく行っていたのですが、教授からの指摘はおおよそ今回学んだこととリンクしていて、自分の中でかなりすんなり納得することができたと思います。今後意識してスライドづくりや発表に生かしていきたいと思っています。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義は、プレゼンを考えるうえで非常に参考になった。手持ちの情報はそのまま、聞き手の心情や気持ちの流れを考えてプレゼンすると、自分の伝えたい情報を伝えやすくできるのだと感じた。我々が何気なく見ているテレビや動画は、そのように考えられたうえで細かい工夫を施し、つくられているのだと改めて感じた。わかりやすくよりも「興味深く」という表現は感銘を受けた。聞き手が興味深く感じるプレゼンをするということをこれから考えていきたい。質問なのですが、同じ情報でも見せ方を変えるだけで印象に残りやすいものになると感じたのですが、受け手によっては「盛っているんじゃないか」等疑うような反応も生じやすくなると感じました。その場合どのような対処が考えられますか。また、学会のように説明的な文章が必要な場合でも、今日の講義にあったプレゼンの作り方は有効でしょうか。よろしくお願いいたします。</p>	
<p>最近論文を書いてプレゼンテーションをすることを考えていたので、長い論文をどうにか短い時間で説明し切ろうと説明的なプレゼンになっていました。ストーリーを考えるのはよくやっています、高校までのプレゼンは主にそれらを意識してやっていました。論文のプレゼンやレビューはまた違った難しさがあると思いますが、今回の講義で伝えると言うことはどう言うことか思い出し、これからのプレゼンがより良いものにできると思います。よくNHKのドキュメンタリーを見るのですがよくできたストーリーだと感じています。日頃からそういった気持ちの逆算をし、伝える能力をつけたいと思いました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>貴重なご講義ありがとうございました。僕はプレゼンテーションが得意だと自負しています。その理由としては、これまでに公式なプレゼンテーションをする機会が多かったからです。中学校ではその学年のまとめ役である学級委員長を務め、高校では文化祭実行委員長を務めました。このような経験をしているので、人前に出て自分をアピールすることに慣れていて自分自身思っています。しかし、僕が重要だと考えていたのは「自分をいかに出すか」ということであり、先生がおっしゃっていた「相手の気持ちを考える」ことは重要だと感じていませんでした。先生の講義を聞いて、相手の気持ちを考えて、自分が一番伝えたいことに向けて流れをピークに持ってくるという、流れを作り出すことの大切さを実感しました。そのことをしっかりと胸に留めて、これからの就職活動だけでなく、人生において活かしていきたいです。</p>	
<p>今日の講義を聞いて、プレゼンがどのようにしたら相手に理解してもらえるようになるか、逆算、キーワード、塗り絵の3つについて具体的な方法を教えていただきとても勉強になり、今後のプレゼンにも活かしていきたいと思った。</p>	
<p>今日の講義を聞き、発表する相手が専門家か一般の人かで発表の内容を変えることが大切だとわかりました。また、桜の中継の話で、自分と先生の発表する話題の順序が違いましたが、順序を変えるだけで印象が変わり、より相手に伝わりやすくなっていましたので驚きました。最後のサッカー選手の映像では、後者の方が前者より感動したので、発表の構成は大切だと思いました。</p>	
<p>自分のプレゼンに思い当たる節ばかりあったので改善していこうと思いました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日の講義の中でキーワードとなっていた、逆算・キーワード発見・ぬり絵方式のうち、逆算やぬりえ方式はゼミでの論文の紹介や研究報告などPowerPointを使用する発表の場では気をつけていましたが、キーワードの発見、伝え方を変えたり、理解しやすい切り口を見つけると言うのは出来ていなかったと感じました。キーワード発見はすぐにポイントを見つけないと、という苦手意識もあるのですが、意識して変えていきたいと思います。また、発表の場ばかりでなく普段から話す順序を考える意識を持ちたいと思いました。</p>	
<p>見る人によって目的が違うため、相手が知りたいことから逆算してプレゼンテーションを組み立てる必要性を学んだ。また、ピンポン玉の例で、伝えたい魅力的な観点を一つに絞ることで、あそこまで引き込まれ方が違うということに驚いた。これまで様々な講義を受けてきたが、一番引き込まれた講義だったと感じる。研究概要を書き方が分からず困っていたため、今回の講義内容を活かして、読む人が引き込まれるようなものを書きあげたい。</p>	
<p>本日の講義では、効果的なプレゼンテーションの組み立て方について学んだ。講義では映像を例にとって話が進められたが、日々の発表でも参考になる部分が多くあった。講義で紹介されたプレゼンテーションの3つのポイントのうち、専門の近い人が相手のゼミの発表では、特に「キーワード発見」や「塗り絵方式」でスライドや原稿を作成すると、より伝わりやすくなると思った。また、今後就活などで自分の研究を企業の方に紹介する機会があれば、「逆算」などの手法も交えて話すのが良いだろう。今後のプレゼンテーションでは今回学んだことを参考にしていきたい。</p>	

第8回 キャリマネ2022 プレゼンテーション (小林様)_6月3日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>人の興味を惹くことがとても難しいことは分かっていたが、少し理解できた気がする。</p>	
<p>今までの講義とは違い、90分間講師に引き込まれているように感じた。プレゼンをする上で、相手を振り向かせることが重要であり、今回の講義では身をもって体験できた。これからプレゼンをする機会は増えていくと思われるので、相手の心理に立つことを心がけて、少しでも興味を引かせられるようにしたい。この講義では、プレゼンの「組み方」についてご教授頂いたが、「演出」については何か気を付けること等あればご教授頂きたい。</p>	
<p>過去のキャリマネの講義の中で一番面白かった。興味を引くことが重要であり、またその興味を引くことの難しさがあると感じた。そして、専門家と一般向けではアピールのやり方が異なってくることや、議題の注目のや気持ちのピークを持つてくるにはその前、その前を考えるプロセスがある事、本講義を受けて今まで惹きつけられる発表は映像作品にはこれらのことが共通していたことに気づいた。今回学んだことを、今後の大学院生活および社会人人生で生かしていきたい。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回はご講演頂きありがとうございます。講義自体があっという間に終わってしまい、先生の人を引きつけるプレゼンテーションというものを身をもって体感させて頂きました。中でも、プレゼンテーションを行う時に情報は切り捨てるというのがとても印象的でした。自分は今までプレゼンを行う際に、どうやったら伝わるのかということを中心に考えていたので、どうやったら興味を持ってもらえるのかという事を念頭に置くと、内容が相手に伝わりやすいプレゼンに繋がるというのがとても驚きでした。今回教えて頂いた3つのポイントを意識して、人を引き付けられるようなプレゼンを行えるように努力していきたいです。段落分けをしてどうやって感情が動いたのかを書き出すという練習も行ってみたいと思います。</p>	
<p>ビデオと実践ワークを通して、見せ方次第で伝わり方がまったく変わってくるということを特にピンポン玉の動画を見て実感しました。ピンポン玉の作り方に関心を持ったことはなかったけれど、「ピンポン玉は精密製品」というキーワードが提示されたときに「なんで？」という感情が湧き、製造過程の様子や意味を興味深く見ることができました。今後プレゼンをする上で受け手の興味をいかに引き出せるかという点を重視したいと思いました。一方大胆に捨てることが大事というのは、以前マーケティングを学んでいたときに実感しました。ターゲットを広く選択すると一見多くの人に興味を持ってもらえるような気がしますが、むしろターゲットを狭く絞り込んで深く環境分析等を行うことで、よりターゲットに刺さる可能性が高めることができたという経験から、あれこれ詰め込まずに1つのことを際立たせて関心を引くことは最も効果的な伝え方だと感じました。</p>	
<p>伝えるためのプレゼンに必要な知識を得られた</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日の講義を通じて、自身の弱みを再認識し、解決に向けて取り組んでいきたいと思いました。私は幼い頃から作文が得意で、説明力には自信があると思っていました。まず全体の大枠を説明して、その後具体化して説明すること、文脈ごとに相手がどのような疑問や感想を抱くかを想像し、すぐ後の文脈で解決していくこと、これらに関して無意識的にできてると感じていました。しかし本日の講義で言語化され、さらに先生の桜のレポートを聞き、改めて自身を振り返った時、全くできていないことを痛感しました。今後は、論文でも就活でも仕事でも、何より人と接する時には伝える力が求められます。本日学んだストーリーのある文章構成がされているかをテレビやネット記事でも意識しながら見ていき、誰かに伝える時にアウトプットできるようにしたいです。</p>	
<p>貴重なお話ありがとうございました。ワークシートを使っての取り組みを通して、人を引き付けるプレゼンというものがどのように構成されているのかということを知ることができてとても興味深かったです。普段はプレゼンやレポートを見る側の立場であることが多かったため、どのような手順を踏んで説明すれば聞いている人が興味をもってくれるのかということ自体を考えた経験がありませんでした。どのようにすれば聞いている人を引き付けることができるのかを逆算して考えること、どの部分を排除すればよいかを考えて話を組み立てることが大切であることがわかりました。これからプレゼンをはじめ自分が人に話を提供する上で役に立つことを多く学ぶことができたので、意識して行ってプレゼン力を上げることが出来ればいいなと思いました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>貴重なお話ありがとうございました。テレビや優秀な人のプレゼンテーションを教材として話のピークとそこに至るまでの逆算や感情の変遷を言語化に取り組んでみたいと思います。一点質問があります。講義中に聞いている人や見ている人に対応したプレゼンテーションや映像を作ることが重要であるということでしたが、私はその判断が最も難しいと考えています。その点の判断はどのように行っていますか？ 私は現在インターシップのエントリーシートで研究内容について説明することが求められています。志望する企業がシンクタンクで研究者寄りということもあり、客観的な文章を心がけていますが今回の講義で読む人の感情に訴えることも同時に行う必要もあると感じました。企業の求めていることを理解し、客観性と感情に訴えることのバランスについてはどのように決定することが望ましいですか？</p>	
<p>以前、NIMSの動画を見たことがあり面白くて飽きずに見ていられると感じたが、その理由が今回の講義を聞いて納得した。今回の講義を通して、人に伝わりやすいプレゼンテーションを作ることの重要性を改めて感じた。これからプレゼンテーションする機会が増えてくるので実践していこうと思った。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>大学院に入ってから、研究についてのプレゼンテーション行う機会が増えました。いまいち、何を軸にして伝えたらいいのか分からず、いつも分かりやすさ優先でスライドを作成していました。今回の講義を受けて、プレゼンテーションを行う相手はどんな人で、何を目的に行うべきなのかを明確にしてからそれを基にスライド作成の軸を、分かりやすさ重視なのか、感情を動かして興味を引くことを重視するのかを選ぶようにしようと思いました。興味を引くような内容にするために、今回教えていただいた感情を動かすプレゼンテーションにおける3つのポイントは非常に参考になりました。江戸彼岸桜の中山さんの話で、どのような感情をピークとして据えたら番組が盛り上がるのかを選択するのが少し難しかったです。僕は中山さんが今でも慕われているという感動を視聴者に与える花見会の説明がピークだと思っていました。選択のコツ等ありましたら教えて頂きたいです。</p>	
<p>今日の講義内容は情報を発信する上でのテクニックみたいなものを知ることができてためになったと感じた</p>	
<p>今回の授業ではどのように聞いている側の気持ちをコントロールできるかについて様々な具体的な事例を用いて理解することができた。特に学会で発表しているときと異なり、一般の人に説明するときには分かりやすく説明するように意識するが、具体的に聞いている側の求めているものが違うことを意識してプレゼンをすることが大切だと理解した。加えて、プレゼンの中でどこに気持ちのピークを持っていくのかについて考えることがとても参考になった。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>キーワードをなるべく少なく、かつピーク点をあらかじめ作ってプレゼンテーションを構成する方法はゼミの資料の作成や学会発表に使用する資料にも応用ができるのかなと講義を通じて感じました。特にゼミの資料では多くの内容を詰め込みてしまい、内容が伝わらないことがあるのでこの方法を参考にしてやっていければと思います。</p>	
<p>貴重な講義ありがとうございました。今回の講義は、今後のプレゼンテーションや就職活動の参考になるお話が多くとても勉強になりました。人の心をつかむためには、受け手の心をどう揺さぶるかが大切ということで、ピークを持ってくる場所が大切で、かつ難しいのだということが分かりました。このような抽象的な内容でも、具体的な映像や実際に自身で考えるワークを交えた説明であったため、とても分かりやすかったです。特に、最後のサッカーのゴールキーパーの映像で、キーパーがPK戦を勝ち切った時、今回の講義で何度も出てきた‘心を揺さぶる’ということを感じました。映像を見た後、気づいたら前のめりになっていました。私も人の心を揺さぶることができるように、日々心動かされた作品はどこで、なぜ心が動かされたのか考えていこうと思いました。ありがとうございました。</p>	
<p>今日の講義はプレゼン発表でのポイントを学んだ。小林先生は興味がない人に分かりやすく説明することが上手で、話し方やプレゼンの資料などとても分かりやすかった。キーワードはできるだけ絞ることが良いと聞き、参考にしようと思った。</p>	

第8回 キャリマネ2022 プレゼンテーション (小林様)_6月3日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>同じものでも見せ方が違うだけでこんなにも違うふうに捉えられるんだなと思い感心しました。今後、発表の機会や、自分をアピールする場面が増えてくると思うので、見せ方に気をつけていきたいと思いました。</p>	
<p>自分が今回の講義を拝聴して一番印象に残った部分は、どれだけ役に立つことを研究、開発しても勝手に人が振り向いてくれるようなことはないということです 正直自分は今回の講義を聞くまでは、宣伝の仕方や、人にどのように伝えるかなどはあまり理系の自分には関係ないとおもっていましたが、むしろ理系の研究発表や、開発成果などを伝えるときこそ輝くスキルだということを今日の講義で学ぶことができました さらに桜のことを伝える疑似的なりポーターの練習の際も人の心理に作用するような会話の進め方、構成を考えることができるとてもためになりました</p>	
<p>4年時から卒論発表などで培ってきたプレゼン力ですが、就活でいかに大事かを再認識できました。</p>	
<p>説明的ではなく、聞き手の気持ちを動かすプレゼンテーションの重要性を感じた。実際の映像の作成例を上げていただき、何が聞き手の気持ちを動かすのかについて注目することができた。また単に気持ちを動かすだけでなく、その気持ちを無理なく繋げる順序というのも重要だと感じた。実際に自分で内容を並べ替えるのも良い体験となった。今後に生かしていきたい。</p>	
<p>なるほどと感心させられることがあり、とても参考になる講義だった。配布資料を使って講義の内容をフィードバックできた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>同じ情報量でもこんなにも伝わり方が違うのかと感動しました。私も相手に分かりやすいようにと心がけていますが、何となくでやっていたものを言語化して説明されていたので、私が目指したかったものはこれかと自身の中で整理ができました。今後就職活動や学会など人に伝えることが多くなっていくと思うので、より伝わりやすい説明をしていきたいと思います。また、CMのお話を聞いて、情報量を詰めればよいわけではないことを初めて知りました。私は情報量が多くなり過ぎて、結局うまくまとめられないことが多くあります。情報の取捨選択をできるようになっていきたいです。桜のワークでは、私は若い枝と中山さんの順番が逆でした。私は若い枝→中山さんのほうが違和感が少ないと考え、桜の後に中山さん情報だといきなりすぎるかなと考えたのですが、どうして中山さん→若い枝の順で、その後また中山さんを偲ぶと戻る方式にしたのかぜひ聞きたいです。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>何か情報を伝えるとき、伝えたいことがたくさんあっても、大胆に情報を捨てることが大切であるとありましたが、思い当たる出来事を最近体験したばかりでした。卒業研究発表会の発表資料を作成する際、研究のすごさを伝えたいという思いから、情報を積み込みすぎてしまいました。詳しい手法の説明や実験結果を、隅から隅まで伝えることで研究の良さを聞き手に伝えることが出来ると思っていました。しかし、今思えば、短時間に情報を詰め込みすぎてしまい、どこが大切なかははっきりとしない、全く魅力的でないプレゼンであったと思います。手法のすごさを強調したいのであれば、そこに絞って発表しても良かったのではないかと本日の講義を聞いて反省しました。この、“情報を大胆に捨てる”というのは就職活動での面接やエントリーシートでも必ず役に立つと思います。直近のインターンシップのエントリーから、このことを意識する練習をします。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を通して、自分の伝えたいことを上手く伝えるためには気持ちを動かすことが大切であると分かった。例えば、自分の研究を誰かに伝える時、自分の研究に興味のある人とない人とでは、伝え方を変えないと上手く研究を伝えることができない。まずは話を伝える人の気持ちを動かして興味を持ってもらってから説明に入るのが良いのである。また、何かを人に伝える時、シンプルにすることを心がける必要がある。本当に伝えたいことが何かを考え、まずはそれを伝えると良いのである。そうすれば、人に興味を持ってもらえ、もっと詳しく知りたいと思ってもらえるからである。本当に伝えたいことが埋もれてしまわないように、シンプルにすることが大切なのである。また、概略を説明してから詳細に入ると、人に理解してもらいやすくなる。今回の講義を通して、逆算、キーワード発見、ぬり絵方式の3つが人に何かを伝える時に大切であることが分かった。</p>	
<p>今回の講義ではプレゼンテーションについてお話していただきました。このお話で相手にプレゼンする場合の必要なことの多くを学ぶことができました。用いるツールは映像でしたが、映像では人に伝える場合、論理よりも心理を考えなければ伝わらないとのことでした。この事を踏まえて大事な要素として逆算、キーワード発見、塗り絵方式といった3つを提示していただきました。どの要素もプレゼンの伝わりやすさにつながるものであり、具体例とともに示されたため実際の活用方法を学ぶこともできました。今回学んだことを実際に自分の研究を説明する際にも使ってより自分のプレゼンテーションのレベルを高めたいと思います。</p>	
<p>人のこころの変化に対して、それをどのように捉えて向き合っていくべきなのか、改めて考えることができた</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私の研究室ではプレゼンを作る際にストーリーを意識するよう指導されます。今回の講義に参加して話の流れの重要性を再認識することができました。自分の伝えたい事を適切に相手に伝えるために普段から意識して話す癖をつけたいと思います。</p>	
<p>今まさに、就職活動に向けて動き始めて、研究内容など専門的なことをどのように伝えればよいのか悩んでいたところだったので、身近な例を交えて、要素は同じでも順序が変わるだけでものすごく伝わり方が変わることや、相手・目的によって伝え方が多ク異なることを話していただき、すごく勉強になりました。自分も意識していないだけで、日頃見ている番組に気持ちを作られていたのだと今日のワークなどを通じて感じました。逆算して一番伝えたいことにピークを持ってくるなど、興味深い伝え方をマスターできるように、番組などの構成を考えながら見るというのを実践したいと思います。有難うございました。</p>	
<p>本日は伝え方についてお話ししていただき、大変勉強になりました。実際にメディアとして日本に放送しているものから何かヒントを得るとは考えたこともなかったので、今後ドラマや映画など見るときに限りと人の感情の動きをどのように動かされているのかについて着目し、それを自分の研究テーマに落とし込んで人に分かりやすく伝えるということを意識したいと思います。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>ふとテレビをつけて、教育番組や総合テレビにチャンネルを切り替えたときにその内容に引き込まれて見るということがしばしばあったが、番組制作側の意図通りの行動をしていることを知って驚いた。セミナーでは良い例と悪い例を相互に紹介・比較しながら進行していたため、イメージがつかみやすく良かった。今後、様々な人に自分の専門分野を話す機会が増えてくると思うが、その際は今回の内容を参考にし、ピークからの逆算やキーワードの使用など工夫をして話せるようにしたい。【質問】説明の中で、先に結果や概略を示すのが良いと話していましたが、最後のネイマールの動画では結果を話さずに進んでいたのですがこれに関してはどう思いますか。個人的には逆にどうなるのだろうということが気になって気持ちが動いて良いのかなと感じたのですがいかがでしょうか。</p>	
<p>講義を聞いたことでロジカル・シンキングの大切さを学ぶことができました。自分の使う技術の原理、原則を普段から考える癖を身に着けたいと思います。また、博士課程の進学については研究室によってメリットとデメリットがあると感じています。私の研究室では博士課程に進学する学生が少なく、正直なところ同じ目線で議論できる人が身近にいる環境ではありません。自分にとって何を大切にしたいかを考えつつ、行動を選択していきたいと思います。</p>	
<p>プレゼンテーションについて説明する場合と、人にいかに引き寄せて聞いてもらう、みてもらう違いがよくわかりました。実践できるようにしたいと思います。ストーリーづくりが大切と思いました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>研究者の立場とはまた一つ異なる視点からのプレゼンテーションの講義をお聞きすることができ、大変参考になりました。異なる視点とはいえどもそれは研究の場にもつながることでありました。逆算やキーワード発見、ぬり絵方式といった方法を自らの研究に落とし込み、今後に生かしていきたいと思います。</p>	
<p>改めて「伝える」難しさについて考えられました。日本語は世界の中でも難しい言語と言われており、行政では形式として使用していたことも会社員になってからメールひとつとってもより誤りのない伝え方を考えるようになりました。そのような中で、今回のプレゼンテーションの講演を拝聴して伝えたいことを絞ることが重要だと感じました。以前、学会発表を経験した際に指導教員より伝えたいことが多すぎるという指摘を度々いただきました。自身のなかでは焦点を絞っているつもりでも枝葉が多くついていました。今回の最後の演習ではその経験を思い出すトレーニングになり、さらに一朝一夕で身に付くものではないと実感しました。日々の課題や日常の事象・会話のなかで意識して組み立てるようにすることが大切だと思いました。また、多くの映像を使用した講演で気付けば「気持ちの流れ」に引き込まれていた時間だったと思います。ありがとうございました。</p>	

第8回 キャリマネ2022 プレゼンテーション (小林様)_6月3日

教職員：質問／コメント	回答／コメント
<p>興味のない人の感情に向けていかに惹きつけることができるか、具体的なポイントも教えていただき非常に面白かったです。早速感動したドラマ等の段落を整理して探ってみようと思います。</p>	